

化粧と自尊感情の関係からみる現代の若者の生きづらさ

——化粧の受容によって生きづらさは軽減されるのか——

入学年：2018年 学籍番号：111181453

専門分野：社会学・地域福祉社会学

氏名：加本梨緒

2022年1月7日提出

要約

現在の日本において、化粧品には大きなジェンダー差が存在する。女性には身だしなみとして、多くの服装の規定とともに化粧品をすることが求められているのに対し、男性が化粧品をおこなうことには良い印象を抱かれないことも少なくない。容姿は自己評価の規定に大きな影響を与えるものであり、その容姿への周囲からの干渉は人々への生きづらさを引き起こす要因となるのではないか。本論文では若者がどういった意識のもと化粧品をおこなっているのか、他者の化粧品についてどういった印象を抱くのかを調査し、化粧品と生きづらさの関係を明らかにし、今後の化粧の在り方について検討していく。

元来化粧品というのは女性のものだけではなく、性別に関係なくおこなわれてきたものであった（平松 2020）。明治時代以降、近代化と帝国主義化が進むなかで、男性は美から切り離されてきた（山本 2020）が、戦時中にも男性は化粧品をおこなっていたり、戦後も男性用化粧品が販売されたりと男性が全く化粧品をしない時代はなかった。しかし、現代の大学生では、男女で比較すると女性の方が化粧品をしており、異性からも化粧品を期待されていた（平松、牛田 2003）。女性は化粧品をするのがマナーだとされ、義務感を感じる人もいる一方、男性においては「化粧品をしたくない」と感じる人も多くいた（山下、矢野 2019）。化粧品の成分による肌への被害など、美意識により健康が阻害されることもあるが、化粧品は対人恐怖症傾向の改善（野澤、沢崎 2007）といった効用もあり、化粧品は人々に良くも悪くも強く影響を与えている。

本論文では、性別、世代の異なる 6 名への聞き取り調査を実施し、彼らの日々の化粧や化粧品への意識、他者の化粧品への印象を明らかにすることで、集団のなかでの化粧とそこから生まれる不安、生きづらさの検討をおこなった。

調査の結果、女性は友人や周囲が化粧するようになったことで化粧を始めており、化粧経験のない男性も周囲が化粧をすれば自らもするようになると考えていることがわかり、人々が化粧を行動に移す際に、周囲の影響が大きくあるとわかった。また、他者とのコミュニケーションのなかで、相手に自らの容姿が不快ではないか、悪い印象を与えていないかを心配しており、化粧品をしている大学生 3 名は化粧せずに外出することに不安も覚えていた。相手にどういった印象を与えるかを考え、化粧品を変えていると語った人もおり、化粧品をはじめとした身だしなみは、個性の発揮というよりは、人間関係を上手く築くためのツールとして存在していた。

化粧品へのジェンダー的差異については、社会人男性を除く 5 名が男性の化粧品に肯定的、

もしくは気にならないという回答であったのに対し、化粧をしない女性については3名が最低限はした方がいいと感じていた。社会人男性は最もジェンダー的差異を強く持っており、女性は化粧が身だしなみとしてあると考えながらも、男性の化粧にはマイナスな印象を抱くこともあった。化粧に対して女子大学生2名が義務感を感じていたのに対し、社会人女性は義務感を感じてはいなかった。女性が化粧をしなければならないという現状については、大学生4名が解消されるべき考えだと語ったのに対し、社会人女性は強く反対することはなく、社会人男性は女性は化粧を楽しむべきと考えているなど、学生と社会人で異なっていた点であった。

6名の語りを受け、コロナ禍による化粧の変容や化粧の受容による個性発揮や同調傾向の強まりなどが化粧の今後として考えられる。

所属集団によって女性が化粧を求められるかが異なり、周囲に化粧への意識が共有されるなど、人々が所属する集団によって化粧への意識が異なっていることがわかった。人々は周囲の人々とお互いに不快にならない容姿というものを作り上げ、それに近づくために身だしなみを整えていた。円滑な人間関係を求め、相手に良い印象を持ってもらうために装うことは、個性を隠しかねない。人間関係を優先するために、容姿への自由を失うこともある。一方で全員が個性を発揮しようとするれば、お互いの個性がぶつかりあうこともあり、個性的でなければならないという新たな負担も生まれる可能性もある。

化粧について、周囲からの干渉を受けることで生きづらさが生まれるため、周りがどう思うかではなく、各人がしたいかしたくないかで化粧をするか否か選択できるようになることが生きづらさからの解消に繋がるであろう。

目次

1 現代における化粧と若者	1
2 化粧とジェンダーをめぐる先行研究	1
2.1 化粧の歴史的変遷	1
2.2 大学生における化粧意識	5
2.3 化粧とジェンダーについて	7
2.4 容姿と健康	10
2.5 化粧の効用や役割	12
2.6 先行研究のまとめ	13
3 若者の化粧行動に関する聞き取り	14
3.1 Aさんの語りから	15
3.2 Bさんの語りから	18
3.3 Cさんの語りから	20
3.4 Dさんの語りから	23
3.5 Eさんの語りから	24
3.6 Fさんの語りから	26
4 6名の語りにみる若者の化粧意識	27
4.1 女性3名の語りにみる女性と化粧	27
4.2 周囲の影響を受ける化粧への意識	28
4.3 対人関係における化粧の意義	29
4.4 ジェンダーと化粧	29
5 日本社会における化粧のこれから	30

5.1	コロナ禍による化粧に変容	30
5.2	化粧の自由化による個性発揮の時代	32
5.3	化粧の受容と同調傾向	33
6	化粧と生きづらさからの解放	35
	[注]	36
	[文献]	40